

オリエント化学工業

今年創業100年を迎えた大阪市のオリエント化学工業は、筆記具のインキ原料や樹脂着色剤などとして市場が世界に広がる黒色染料・ニグロシンで世界シェア50%を保有するこの業界の最大手だ。高橋昭博社長は次の100年を見据え、「これから、先人に恥じないようなどんな歴史を刻めるのか。奥の深いこの染料の可能性を追究したい」と目を輝かせた。

その戦略の柱が、レザー溶着用樹脂向けの特異なニグロシンだ。樹脂の高機能化が進み、自動車や家電業

独自工法を車載用に展開

特殊ニグロシンに強み

界では金属部材を樹脂に置き換える動きが本格化している。しかし、樹脂シフトの取り組みは車載用途としての強度や耐久性、そして精度、コストをバランスさせなければならず、高度な接合技術が求められる。その救世主として注目されるのがレザー光を吸収・透過する樹脂を使った溶融接合だ。

「レザー溶着の普及には専用樹脂の開発が不可欠だ。当社の『e BIND（イーバイン ド）シリーズ』（商品名）は、そのレザー溶着に用途を特化した高機能色素。樹脂メーカーなどの共同研究でPA6向けのほか、ポリプロピレン（PP）やポリフェニレンサルファイド（PPS）、ポリブチレンテレフタレート（PBT）などのマスタバッチ化を完了しており、自動車業界などで評価試験が本格化している」（高橋社長）。

レザー溶着工法を自社開発し、市場でアピールする同社は昨年、大型部材でも高精度で迅速な接合を実現した新工法「ハイブリッドLTW」を発表し、顧客の注目を集めた。「車載用途で2020年に本格採用されることが目標。将来的には年数百トンの色素供給を視野に入れている」（同）。

もうすぐ新年、2018年の幕開けだ。20年を目前に、来期を見据え複数の新事業が動き始めている。